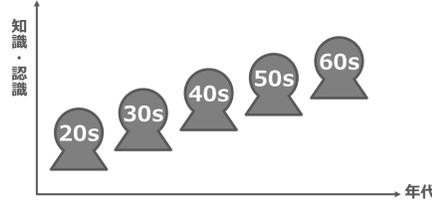


若年層において、東日本大震災と原発事故の教訓や記憶の風化が進んでいるとの指摘がある。このような知識や認識の世代間差の背景には、日常生活における情報探索行動（情報媒体や情報収集意識等）の違いがあると考えられる。そこで本研究では、福島県内在住者を対象としたWeb調査データから、世代間の風化そのものではなく、世代間の情報探索行動の違いがあることを示す。

1. 背景：若年層で教訓・記憶の風化が進んでいると指摘

- 原子力災害関連の知識や認識に世代間差あり
● 年代が上がる（若年層⇒中高年層）につれ、県外最終処分についての認知率が上昇



2. 目的：そもそも世代間で情報探索行動が違うのでは？

- 1. 「世代間の情報媒体への接触」の違い
2. 「世代間の情報収集意識」の違い
3. 「世代間の震災関連施設の認知度」の違い

+ 「地域間」の違いを分析する。

<調査の概要>

- ① 調査対象：2024年3月13日から3月15日の期間に、福島県内在住者800人（株）マクロミルのモニターを対象にWeb調査を実施
② 割付：性別×年代（20代から60代）×県内3地域（浜通り地域・中通り地域・会津地域）の人口構成比で割付
③ 分析項目：ア）1ヶ月間の情報媒体への接触（以下、情報源利用）、イ）情報収集意識、ウ）震災関連施設の認知度
④ 倫理審査：所属組織の倫理審査委員会の承認を得て実施（承認番号2023-2-04）

※本研究は山田常任研究員との共同研究であり、同会場の「山田・静間」と同一のデータセットを用いている。

3-1. 分析結果：若者層と中高年層とでは、（ア）情報源利用や（イ）情報収集意識に違いがある

Grid of tables and charts showing media usage and awareness for 20s, 30s, 40s, and 50s age groups across different regions.

3-2. 分析結果：浜通り地域外で知らない人が多い

Grid of tables and charts showing awareness of disaster-related facilities across different regions and age groups.

【参考文献】
【1】福島民報「震災・原発事故13年」福島県民世論調査 東日本大震災と原発事故の教訓や記憶「風化」77.6% 正確な情報発信必要 2024年3月4日記事
【2】井上天帆・開沼博（2024）「震災記憶消滅世代の東日本大震災・原発事故に対する認識の現状と課題」東日本大震災・原子力災害第2回学術研究会集要稿集、pp.175-176.
【3】奥書雅・前川直哉・西村君平（2023）「東日本大震災後の福島に関する知識の年代変化：福島大学ふくしま未来学入門受講生の知識チェックに基き」福島大学地域創造 第36巻 第1号、pp.35-44.
【4】毎日新聞「「東北」電力福島第1原発？ 高校生半数が誤解 調査で判明」2024年5月17日記事
【5】環境省中間貯蔵施設情報サイト「中間貯蔵施設去土壌等の調査・再生利用技術開発戦略検討会 コミュニケーション推進チーム（第6回）：資料2 今年度の理解醸成活動の効果検証について」